

今月のトピック

さらに羽ばたけ会津地鶏!

本年度2回目の「会津地鶏による会津の味おこし求評会」を2月14日、下郷町ふれあいセンターで開催しました。

前は、昨年の11月に只見町で南郷トマトと会津地鶏を活用した料理について開催しましたが、今回は、昨年度作成した「会津地鶏味おこしレシピ集」に収められている81作品のうち、「そば」や「じゅうねん」などの南会津の特産品を活用した料理や、料理の内容やネーミングが南会津を意識させる料理22作品の中から5作品を選考し、5作品の応募者自らが調理を行った後、旅館、民宿、飲食店の経営者など約80名の人に試食・求評を行っていただきました。

料理に関して出された意見として「地鶏と他の素材の相性が良い」、「バラエティーに富み、観光客にも受け入れられそう」など好評なものでありました。

また、併設した「会津地鶏紹介コーナー」、福島県で育成した「米新品種ふくみらい試食コーナー」も盛況で、今回の求評会は、実り多いものであったと感じています。



あっという間になくなった試食料理

氏名	町村名	料理名
平野 ハシメ	伊南村	会津地鶏肉と舞茸の包み焼き
広瀬 正治	下郷町	会津地鶏の味噌田楽
星 サヨ子	会津若松市	会津地鶏の唐揚げじゅうねん味噌がらめ
堀江 哲郎	舘岩村	奥会津地鶏なべ
渡部 佳弘	田島町	会津地鶏のアスパラ射込み蕎麦の実餡かけ

今回と前回を合わせて10作品の料理が選ばれましたが、この料理が定番料理として定着するように、今後、パンフレットを作りPRを行っていきます。

最後になりますが、南会津を訪れた人に会津地鶏料理を味わってもらうことによって、会津地鶏の生産と消費が拡大されることを願っています。(農業振興部)

「南会津地方林業労働安全衛生講習会」開催する



実践で役立つ事故予防方法を学ぶ

林業労働の作業現場においては、急傾斜地や足場の不安定な現場が多く、高速回転のチェーンソーや下刈機等を使用するため、他の産業に比べて労働災害の発生率が高く、また重度の災害につながるなど、厳しい環境となっています。このため、農林事務所では林業労働災害を予防するため、2月22日にJA会津みなみ本店において「南会津地方林業労働安全衛生講習会」を開催しました。

講習会には、南会津郡内の素材生産業者、森林組合等において実際に林業現場で仕事をしている人42名の出席がありました。講師には会津労働基準監督署の清水俊明安全専門官と林業普及指導協力員の小板橋英雄さん、大久保幸祐さんの3名があたりました。

清水さんは「南会津郡の労働災害の特徴について」と題して、災害は作業員のふとした勘違いや思いこみから発生する事が多いことを事例を示しながら説明、また、小板橋さんは「林業労働災害の防止について」と題して、イラストの入った資料を用いながら指差呼称による意識付けが災害を防ぐことを、大久保さんは「林業機械の取扱方法について」と題して、チェーンソーの取扱や事故予防方法を、それぞれわかりやすく説明しました。

講師のお話は、それぞれが作業現場において直ぐに役立つ実践的な内容が多く、参加者達は熱心に聞いていました。当地方から事故を起こさないよう、心がけて行きたいものです。(森林林業部)

「健全な食生活推進研修会」を開催

「健全な食生活推進研修会」を2月18日に田島町中央公民館で、2月22日には只見町総合開発センターで開催しました。

これは、「食生活指針」に即して健全な食生活を推進するため、望ましい食料消費と食生活のあり方(日本型食生活)の基本である「食生活指針」を普及・啓発し、地域の食生活見直しの取り組みを促進するとともに、地域食文化の伝承と地域農産物の活用促進を図るために開催したものです。

田島町では25名が参加し、「食生活指針普及ボランティア」の馬場イネ子さんによる「食生活指針」についての説明、栄養バランスの良い地元食材を使った料理レシピの紹介・試食、適塩味噌汁の試飲、塩分測定等を行いました。



調理実習の様子



ボランティアによる「食生活指針」の説明

只見町では30名が参加し、「食生活指針普及ボランティア」の菅家紀子さんによる「食生活指針」についての説明、地元食材を使った料理4品目の調理実習・試食、適塩味噌汁等の塩分測定を行いました。また、ご飯は福島県のオリジナル品種「ふくみらい」を炊飯し試食しました。

そして、両研修会では、南会津保健所主任栄養技師鈴木秀子さんを講師に招き「食と健康」～南会津の食生活の実態から～と題して、当地方の健康と食生活の実態や対処方等について講話をいただきました。

参加者は「食」に関心の高い方ばかりで、熱心に研修に取り組んでおられましたが、地元に戻ってからもご近所の方々に「食生活指針」を広めていただきたいと思います。(地域農林企画室)

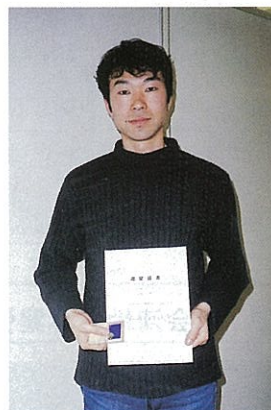
南会津郡初の青年林業士、誕生!

福島県では、林業に関する知識と技術を持ち、林業後継者の模範となる若き林業者を「福島県青年林業士」として認定して、地域の林業振興の発展に寄与して頂く制度があります。県内ではこれまでに7名の方が認定され、様々な分野で活躍されていますが、この度、南会津郡から初めての「青年林業士」が誕生しました。

今回認定されたのは、只見町布沢地区に在住の梁取一樹さん(30歳)です。梁取さんは高校卒業後、首都圏の学校に進学し、就職もしていましたが、故郷への想いから平成13年度にUターンし、現在は実家の布沢造林有限公司で造林・保育関係事業に携わっています。

また、会津流域林業青年会議所の会員や只見町集落リーダーを通じて活動しているほか、平成13年度には県主催の林業研究グループ等技術交換会において、現場で実践している下刈り、間伐等の作業を通じた林業技術の向上への取り組みや他産業の若い人達との交流を積極的に実施していることを発表するなど、林業後継者としてこれからの活躍が期待されています。

なお、2月13日、農林事務所長室において、「認定証書」及び「記章」の交付式を行いました。(森林林業部)



今後の活躍に期待

五十嵐徳三さん緑化功労者に表彰される



表彰おめでとうございます

平成14年2月18日、福島市「杉妻会館」において開催された福島県緑化推進委員会の通常総会の席上で、田島町の五十嵐徳三さんが緑化功労者の表彰を受けました。

五十嵐さんは、平成2年よりボランティアで桜のテングス病除去等桜の保全に尽力され、また、それを通しての緑化思想の普及活動を熱心に行ってきました。

表彰を受けた五十嵐さんは、「こつこつと行ってきた活動が認められとてもうれしい。今後とも季節に応じた桜の保全に努めていきたい。」と穏やかに語ってくれました。

今年ももうすぐ、五十嵐さんが手入れをした桜がきれいな花を咲かせる季節がやってきます。(森林林業部)

認定農業者連絡協議会が発足(下郷町)

3月4日、下郷町認定農業者連絡協議会の設立総会が開催されました。これは、11月7日に設立準備会を立ち上げるなど、協議会設立に向け地道に話し合いを積み重ねてきたこれまでの成果の現れです。

総会では、会の規約をはじめ事業計画などの議案を満場一致で決定し、会長に星忠勝さん、副会長に佐藤重夫さん、室井和敏さん、会計に金子政彦さん、監事に小山匡司さん、弓田久孝さんを選出しました。

役員を代表し星会長から、認定農業者の会として、意義のある会にしていきたいとの抱負が述べられました。

南会津農林事務所管内では、田島町・只見町に続いて3つ目の認定農業者の組織が誕生し、今後の活躍が期待されます。

総会后、鏡石町で農業を営む(有)松葉屋の今泉文克社長から「自然と共生する農食品産業に生きるために働き・働きのなかに喜びを」と題した講演が行われました。講演会には農協女性部の方々も加わり、熱心に耳を傾けていました。(農業振興部)



役員として活躍される方々

ひとくち普及情報

木造住宅(軸組工法)の仕組みを知ろう

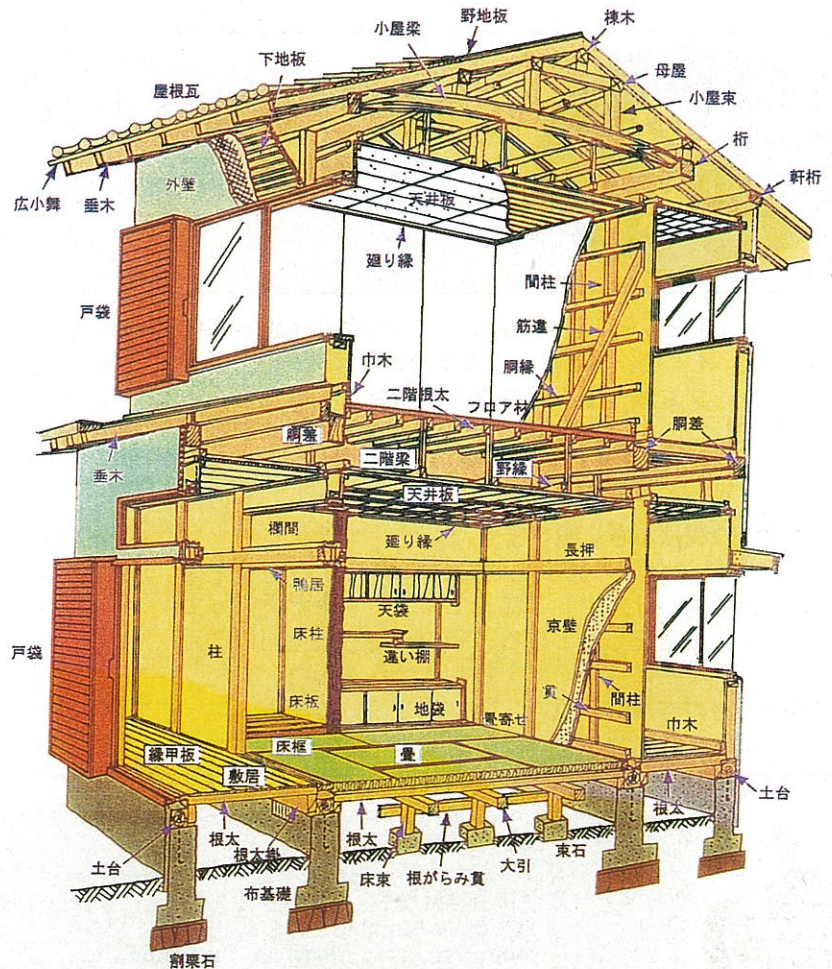
日本では、昔から神社やお寺をはじめ、ふつうの人々の住まいまで、多くの建物が木材を使って建てられてきました。日本の代表的な木であるヒノキ、スギ、ケヤキなどは強く加工しやすく、見た目も美しいため建築用材として特に適しています。これまでの日本の木造住宅は、柱、梁、桁、貫、筋交いなどを組み合わせて作る昔から伝えられてきた方法(軸組工法)で建てられてきました。

さて、右に一般的な木造家屋の構造を図解しましたがどのくらい知っていますか?

詳しくは南会津農林事務所森林林業部へ TEL0241-61-5373 (森林林業部)

各場所の名称

野地板(のじいた)	欄間(らんま)
棟木(むなぎ)	貫(ぬき)
母屋(もや)	違い棚(ちがいでな)
小屋束(こやつか)	地袋(じぶくろ)
桁(けた)	畳寄(せたまよせ)
軒桁(のぎけた)	縁甲板(えんこういた)
小屋梁(こやばり)	敷居(しきい)
下地板(したじいた)	根太(ねだ)
屋根瓦(やねがわら)	根太掛(ねだかけ)
広小舞(ひろこまい)	土台(どだい)
垂木(たるき)	割栗石(わりぐりいし)
外壁(そとかべ)	布基礎(ぬのきそ)
天井板(てんじょういた)	床束(とこつか)
廻り縁(まわりぶち)	根がらみ貫(ねがらみぬき)
戸袋(とぶくろ)	大引(おおびき)
間柱(まばしら)	東石(つかいし)
筋違(すじかい)	長押(ながし)
胴縁(どうぶち)	床柱(とこばしら)
巾木(はばき)	床板(とこいた)
二階根太(にかいねだ)	床框(とこかまち)
二階梁(にかいばり)	天袋(てんぶくろ)
胴差(どうざし)	京壁(きょうかべ)
野縁(のぶち)	鴨居(かもい)



【木造住宅の構成】

「元気な山村づくり」

NHKの連続テレビドラマ「ほんまもん」が好評です。ドラマに出てくる熊野が南会津地方の状況と似ており、再放送される昼休み時間に興味深く見えています。

2月末の放送で、熊野の山で廃校になった校舎を使って精進料理の店を出すことを決意した主人公の木葉の言葉「この森のにおいの中で、私の料理を食べていただきたいんです。地元の食材を使った手づくり料理は都会でなくて、ここで味わうのが一番おいしいと思うんです。」ドラマのテーマに「地産地消」が取り上げられています。

さらに、リゾート建設用に熊野の木材を提供することを決めた会合での林業家の言葉「何もなく、先の見えないこの集落が木葉さんのおかげで、やる気をおこした」と、山村の厳しい状況やそれに対する模索等が熱っぽく語られています。

南会津地方には、ドラマの舞台となった熊野のような山村がどこにでもあります。平成13年度豊かな村づくり顕彰事業の「むらづくり部門」で只見町の布沢集落が選ばれました。布沢集落は只見町内でも最も奥まった「辺地」にあります。

ここでは「辺びなむら」、「不便なところ」、「奥地」といったイメージを払拭しようと話し合いがもたれ「辺び・不便なところであるから、ほんものの日本

の原風景が残っている」との発想から、区や婦人会等を中心にブナ原生林保護と地区の廃校を宿泊施設「森林の分校・ふざわ」として利用し「山村のくらし体験村」づくりを推進しています。毎年、山菜やきのご採り体験、ブナの原生林散策等、都市住民を多く受け入れられるグリーン・ツーリズム事業のモデル的な地域となっています。

農業面でも農事組合を中心にトマト、花き等を導入し「出稼ぎの必要がない」生産基盤づくりを実施しています。

平成12年度は館岩村の川衣集落が選ばれました。ここでも山間地の条件不利地域でありながら地域資源を生かした「むらづくり」に大きな成果を上げたことが高く評価され受賞しました。

そして、布沢集落、川衣集落ともに「豊かなむらづくり全国表彰」県代表に推薦されています。南会津地方の「辺びな山村」が2年連続県代表となりました。このことは、ドラマ「ほんまもん」の先を行っています。

南会津地方は、ほんものの地域資源を活用して元気な山村づくりを実証しています。

所長 中村 絏夫

新人の 想い

南会津の寒さと温かさ

農業振興部 市下 貴之

(平成13年度新規採用 白河市出身)



私は4月といえば、一般的に春だと思っていました。そして、春というのは季節的には暖かい、従ってストーブもコートも必要なしと判断して田島にやってきました。

しかし、4月といってもやはり朝夕は冷え込むもので、『備えあれば憂いなし』とはよくいったものだと自分の浅はかさを呪いました。

ある日、お酒の席で上司の方に南会津の印象を聞かれた私は、「寒い」と答えてストーブなどを持ってこなかった話をしたところ、その心優しい上司はこんな浅はかな私にストーブを貸してくれました。また、別の上司の方は帰り道に、明日返せばいいからとコートを貸してくれたのはいいけれど、そのコートのポケッ

トに家の鍵が入ってたらしく、私の家までコートを取りに来たなんてこともありました。

このように優しい方々に囲まれて仕事をしている私は大変幸せ者だと思っていますが、農業や仕事の進め方についてほとんど知識の無い私は、諸先輩方に「なんで・・・、どうして・・・。」と質問を繰り返し、ご迷惑をお掛けするばかりでした。もちろん、本庁の担当者や町村の職員の方々にも私が担当であるばかりに多大なご迷惑をお掛けしました。申し訳ありません。

色々な方々に迷惑ばかりかけてきた一年ですが、このことを糧にして、二年目からは極力皆様に迷惑をかけないよう頑張ろうと思います。



あて先 〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

E-mail minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.aфф.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>

みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真 (撮影：円谷)
融雪の進む水田 (田島町関本)



この広報紙は古紙配合率50%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。

